

日本医学会分科会活動報告

学会名(No.54) 一般社団法人日本老年医学会

代表者名 神崎 恒一

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

- 介護施設内での転倒に関するステートメント 2021
- 日本語版 ICOPE ハンドブック 2021
- フレイルサポート医のための疾患治療マニュアル 2022
- 高齢者糖尿病診療ガイドライン 2023
- 高齢者総合機能評価（CGA）に基づく診療・ケアガイドライン 2024

エビデンスの少ない高齢者に関する各種診療ガイドラインを作成し、一定水準以上の質の高齢者診療を担保することができるよう活動している。ガイドラインの作成にあたって、II に記載したように他の専門学会と共同の形を取るか、もしくは他の専門学会等にリエゾンを依頼することでバイアスが生じないよう配慮している。

b. 当該領域における国際的な役割

- 英文紙 GGI(Geriatrics & Gerontology International) の定期発刊(2022 年 6 月発表の Impact Factor 3.387)
- IAGG (The International Association of Gerontology and Geriatrics) に講師を派遣し、老年医学を志す若手医師の育成に貢献
- IAGG (The International Association of Gerontology and Geriatrics) 12 回アジア/オセアニア国際老年学会議の開催 (2023 年 6 月)
- IAGG Master Class on Ageing in Asia 開催 (2024 年 5 月)

英文紙 GGI には世界各国から論文が投稿されており、世界をリードする国際誌と位置付けられつつある。Master Class on Ageing は若手の老年科医育成を目的とした研修会で、2019 年以来 5 年ぶり、日本国内では 11 年ぶりに開催した。アジア各国から 44 名の参加者があり、活況であった。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

- ACP 動画【自分らしく「生きる」ために～ACP ってなに？～】公開 (2021 年 12 月)
- 2022 年度シンポジウム「ACP の考え方と実践 — 本人を人として尊重する意思決定支援」開催(東京大学との共催、2023 年 3 月)
- 高齢者を診察する医師に向けての「高齢者のオンライン診療に関する提言」(2022 年 4 月)
- 2023 年度シンポジウム「認知症を有する人のための緩和ケアと意思決定支援 — エンドオブライフ・ケアのあり方」開催 (東京大学との共催、2024 年 3 月)

- 『高齢者の自動車運転に関する報告書』（老年学会、2024年4月）
- 『高齢者および高齢社会に関する検討ワーキンググループ報告書』（老年学会、2024年6月）

その他、以下のプレスリリースを行った。

- 「介護老人保健施設における新型コロナワクチン接種後（3回目）の健康状態に関するアンケート調査」（公益社団法人全国老人保健施設協会と合同）（2022年9月）
- 「オーラルフレイル3学会合同ステートメント」（日本老年歯科医学会、日本サルコペニア・フレイル学会と合同）（2024年4月）

本活動は、aの学術活動と並んで重要な成果をあげている。エビデンスが必ずしも多くない高齢者の診療を行う上で、一定以上の水準の医療提供を担保するためにガイドラインの発表のほか、このようなステートメントやプレスリリースを行うことは社会的に非常に重要であると学会として認識している。今後も、高齢者の診療において重要な課題と解決策をタイムリーに社会に発表するよう努めていく所存である。

#### d.学会運営上留意している点

あり方ワーキンググループ会議を定期的に行い（Zoom 会議を最大限利用）、理事その他の間で常に情報をアップデートし、解決すべき課題について早急に議論を行い、解決に導くよう努めている。また、会員に対して随時メールやホームページ、また SNS を活用して情報を提供している。

#### II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

- 「高齢者糖尿病診療ガイドライン 2023」（日本老年医学会・日本糖尿病学会）
- 日本医学会連合 領域横断的連携活動事業（2022年度 TEAM 事業）フレイル・ロコモ対策会議（参加学会：日本老年医学会、日本肥満学会、日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会、日本運動器科学会、日本サルコペニア・フレイル学会、日本癌学会、日本生理学会）
- 日本医学会連合 領域横断的連携活動事業（2022年度 TEAM 事業）「領域横断的な肥満症対策の推進に向けたワーキンググループ」活動（参加学会：日本老年医学会、日本肥満学会、ほか）
- 日本版抗コリン薬リスクスケール作成（日本老年薬学会）に協力（2024年5月）
- 高齢者施設の服薬簡素化提言（公益社団法人全国老人保健施設協会とともに、日本老年薬学会）に協力（2024年5月）